

暖冬に泣く雪の観光地 イベントの縮小・中止相次ぐ

今冬、東北地方は雪の少ない日が続き、常生活への負担は減る一方、観光地では雪にちなんだイベントが規模の縮小や中止に追い込まれ、関係者を困らせている。仙台管区気象台などによると今後も冬型の気圧配置は弱く暖冬が続く見通しだという。

海老名秋田県人会・会報

東北で累積降雪量の平年比を観測している75地点のうち、昨年11月1日から2月6日まで平年と同じか平年以上の降雪があったのは、八戸と白河の2点のみ。秋田の5地点など計34地点では平年比が50%を下回っていて、十和田で34%、本荘で33%、遠野では4%で、6県で最も低かった。エルニーニョ現象のため偏西風が平年より北を流れていることなどが影響し、東北付近で寒気が南下しづらい状況が続いているのが因だという。

さらに今季は気温が高く、順次作っているかまくらの雪が溶けてしまうため、15人ほどいる職人が補修や補強に追われている。そのため、祭りなどで設置するかまくらは当初予定していた60から50ほどに減らしたという。

コロナ禍で中止していた、かまくらの中での子ども「接待」を4年ぶりに再開するため「観光客の期待が大きいのではないかと」と(市観光協会)とみている。

約400年の伝統があるという湯沢市の「犬っこまつり」、ここも呼び物の雪像を減らして開催した。例年、お堂と犬2匹の雪像がセットになって十数基並ぶが、今年は3分の1程度の4基になった。雪像用の雪は市内の山間部から往復1時間をかけて約600トン運んでしのいだ。恒例の雪像のコンテストは取りやめた。藤里町で予定されていた「ケツジヨリ世界選手権」は中止となった。



「横手の雪まつり」で設けられるかまくらの雪が足りず、羽後町から400〜450トンほど、成瀬ダム建設現場から約120トンの雪を運んだという。

一つのかまくらを作るのに必要な雪の量は20〜30トンの例年なら学校施設の屋根から落ちた雪で、ほぼ調達できていた。



天気には勝てない」と恨めし顔だ。暖冬は「水不足」も招いている。八郎湖では氷が張らず、「氷上ワカサギ釣り」ができない状態だ。大潟村は今冬最高気温が零下となる真冬日がゼロ。氷は上に雪が積もって厚くなるものだが、これではままならない。大潟橋の東詰めにある八郎湖町の釣具店主は「ここ3年ほど氷が張る期間が短くなっているという。」

居座るクマ、罾で捕獲

2月6日から秋田市御所野の運送会社の倉庫に居座り続けたクマ1頭が3日後に捕獲された。けが人はいない。



秋田東署などによると、体長約1メートルで作業していた男性が通報した。7日にわなを仕掛けたがクマは寄りつかず、8日には吹き矢で麻酔をかけて捕獲しようとしてファイヤースコップで倉庫内を搜索したが、見つからなかった。9日仕掛けた罾には甘いハチミツなどが置かれた模様。県によると、今年に入り県内のクマの目撃は1月末現在で計15件。クマは冬眠に入るため、例年だと1月、2月合わせても目撃は数件程度にとどまり、今冬は異例という。

全国で相次ぐクマの人身被害に対応するため、伊藤信太郎環境相は8日、捕獲や調査に国の交付金が出る

「指定管理鳥獣」にクマを追加すると明らかにした。4月にも追加される。

秋田犬活用へ連携



大館市は23年10月11日、フランス・アルザス地方の観光都市コルマルに2027年オープン予定の博物館「ヨーロッパアンマンガ・アニメミュージアム(MEMA)」と交流促進協定を結んだ。渋谷区で行った締結式では、秋田犬をモチーフとしたマスコットを作成するために国際コンテストを共同で開催することや、大館市と渋谷区、アルザス地方でコンテストの受賞作品の展示会を開くことなどを盛り込んだ基本合意書に、福原淳嗣市長がカトリニス・トロットマン所長とともに署名した。



博物館は日本の漫画やアニメを専門に扱い、コルマルに本拠地を置く日仏交流推進機関「アルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)」が整備する。コルマルはフランス有数の観光都市で、その街並みがジブリ映画「ハウルの動く城」にも描かれている。アルザス地方は幕末から日本と交易があり、1980年代から多くの日系企業が進出している。